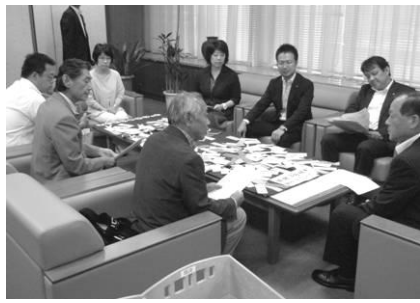


### 島根原発3号機 了承するな

#### 3団体が県議会へ請願・陳情

島根原発3号機の新規稼働に向けた審査申請への「事前了解」を求められている島根県に対し、県内の3団体が6月19日、大屋俊弘県議会議長に「事前了解を了承しないことを求める」



要請したのは、原発ゼロをめざす島根の会(石橋寛事務局長)と金曜日行動実行委員会(岩本晃司代表)、新日本婦人の会県本部(山崎泰子会長)。(写真)

石橋、岩本の両氏は「原発を動かせば、処理方法が確立していない使用済み核燃料が増大することになる。負の遺産をこれ以上、将来世代に引き渡すわけにいかない」と指摘。「事前了解は了承しないでほしい」と求めました。

山崎氏は「お母さんたちは、子どもへの放射性物質による健康被害を心配している。県民の気持ちを汲んで慎重に判断して下さい」と訴えました。

大屋議長は「議会の中で議論を深め、慎重に審議していきたい」と話しました。

### 原発のない島根をつくろう

#### 原発ゼロの会 尾村県議が情勢報告

原発ゼロをめざす島根の会は6月24日、松江市で市民の声を集めるシンポジウムを開き、50人が参加しました。

福祉保育労組島根支部の高麗綾子氏、雲南市原発安全対策協議会委員の光谷公男氏、ゼロの会共同代表の樋野伸一氏がパネラーを務めました。保育士の高麗氏は「1、2才児6人に対し、保育士1人の配置基準では子どもの安全を守れない」と発言。光谷氏は、雲南市に対し、住民との話し合いの場を求めていくことや、同市で「原発ゼロの会」を立

### 島根革新懇、沖縄と連帯する島根の会

#### 極東最大の航空基地・米軍岩国基地 海上自衛隊呉基地ツアー報告②

島根革新懇と沖縄と連帯する島根の会の共催で6月2日、3泊2日の「岩国・呉ツアー」が企画され、松江から10人、出雲から7人の計17人が参加しました。(文責・YU)

### 6月3日(日) 軍港・呉基地を視察

「非核の呉港を求めよう」の事務局長・森芳郎さんの案内のもと、東洋一の自衛隊軍港「呉基地」の現状を視察しました。こうの史代「この世界の片隅に」で描かれた呉の当時を偲びながら、どんどん変貌していく呉市を歩くことは、私たちが世代にとって誠に感

### 長迫地区「海軍墓地」

山手に向かって海の藻屑となった90近い軍艦の大きな自然岩の墓碑が立ち並びます。中央に「戦艦大和」の墓碑。取り囲むように3千人の名を刻んだ墓標がはめ込まれていました。沖繩の摩文仁「平和祈念公園」の沖繩戦で亡くなった老若男女の名

産をこれ以上、将来世代に引き渡すわけにいかない」と指摘。「事前了解は了承しないでほしい」と求めました。

山崎氏は「お母さんたちは、子どもへの放射性物質による健康被害を心配している。県民の気持ちを汲んで慎重に判断して下さい」と訴えました。

大屋議長は「議会の中で議論を深め、慎重に審議していきたい」と話しました。

### 海上自衛隊「軍港」

造船所右方には軍港。日曜日ということもあり、旭日旗を掲げた多数の戦艦と潜水艦が幾つもバースに停泊していました。戦争法によって訓練が忙しくなり、呉軍港に停泊している艦船はずいぶん少なくなつたようですから「皆さんついていきますね」と森さんの弁。一回り大きい「加賀」も停泊していました。見た目が立派な航空母艦です。戦争映画を



見ているようで、日常の風景とは思えません。日本の戦艦は140隻で呉港に48隻が配備。潜水艦は16と17隻保有され、うち10隻が呉に配備されています。22隻が増やす計画があるとのこと。財政赤字の日本が「そんなに急いで何を募りました。(終わり)」

### 出雲 県政・市政報告会ひらく

#### 大田県議、後藤市議が報告

日本共産党の大田陽介県議と後藤由美・出雲市議は6月16日、市内で県政報告会を開きました。

6月県議会、市議会での島根原発3号機の国への審査申請「事前了解」な

事者は、患者の命と自分の家族を放射性物質から守るといふ二つの使命を負っている」と述べました。

大田県議は、中電が原発稼働を推進しようとする背景には、電力会社の利潤追求と原発を重要なベールロード電源と位置づける政府のエネルギー基本

### 尾村県議の質問(続き)

#### 周辺市に原発同意・不同意権を

尾村県議は、原発立地自治体、周辺30キロ圏内自治体には法律で避難計画策定が義務付けられているものの、立地自治体以外の自治体には原発稼働に対する同意権・不同意権が付与されていないと指摘。国に対し、原発事故被害が想定されるすべての自治体に対し、同意・不同意権を付与するよう求めました。

### 原発稼働の条件は皆無

尾村県議は、原発直下には「ひびみ集中帯」が存在し、宍道断層(39キ)と鳥取断層(98キ)の活断層が走っている▽医療関係者から「避難過程で病状が悪化し、命の危機につながる恐れがある」との声が出されている▽使用済み核燃料や核のゴミ処理方法も未確立で核燃料サイクルは破綻している▽住民の避難道路になる緊急輸送道路上の橋71カ

### 命を守る(1)として県政の使命・魂

福島では、県内すべての市町村議会が「原発廃炉を求める国への意見書」を決議し、福島県議会も全会一致で「福島第2原発廃炉を求める意見書」を四度も決議しました。この願いに押され、東京電力は6月14日、福島第2原発の全4基の廃炉を表明しました。

尾村県議は「国政が県民の命と安全を脅かすとき、間違った国の政治に立ち向かうことこそ、自治体の使命・魂だ」と強調。「県民の命を守るために、原発に固執する国の原子力政策に無批判・迎合であってはならない」と強く訴えました。

計画があると指摘。「参院選で自民・公明の与党などを少数に追い込み、エネルギー基本計画を撤回させよう」と訴えました。

後藤市議は市議会一般質問で、原発に関する市民アンケートを行うよう長岡秀人市長に要求したことを報告。市長は答弁で「多くの意見があることは承知しているが、実施する予定はない」と答えたことを紹介しました。

所537カ所のうち対策済みは191カ所、土砂災害対策箇所2173カ所のうち整備済みは389カ所に留まっていると指摘。「原発稼働条件は皆無であり、このような中、県が原発稼働を決定し、原発事故が起これば、県が引き起こした『人災』になる」と迫りました。

再質問で「原発ノーの県民の願いに反して原発を稼働すれば、県民の信頼をなくす」と強調し、「判断基準に命と安全を守ることができるのか」を据えるべきだと力を込めました。